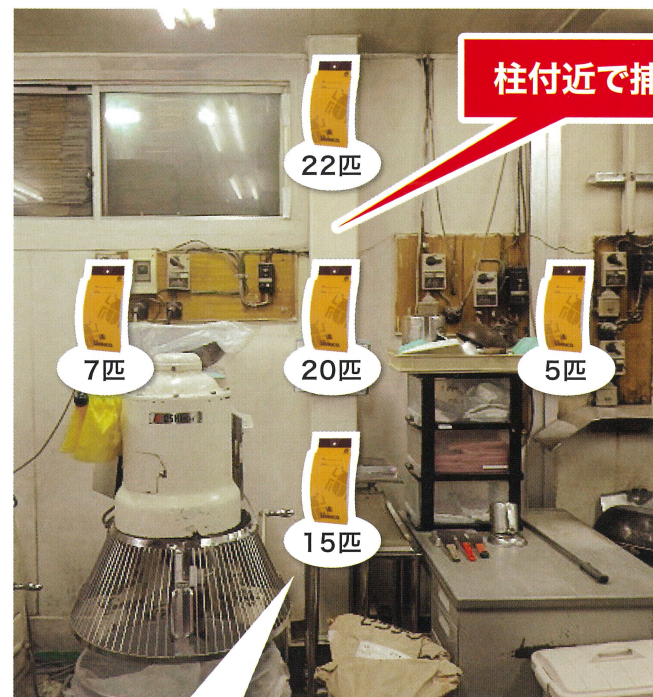


# 養生モニタリング

～探索後の最終チェック～

捕虫が見られたフェロモントラップ周辺を確認する事で、  
疑わしい場所が発見されたとします。  
本当にこの場所が発生源であるか最終チェックする方法を紹介します。

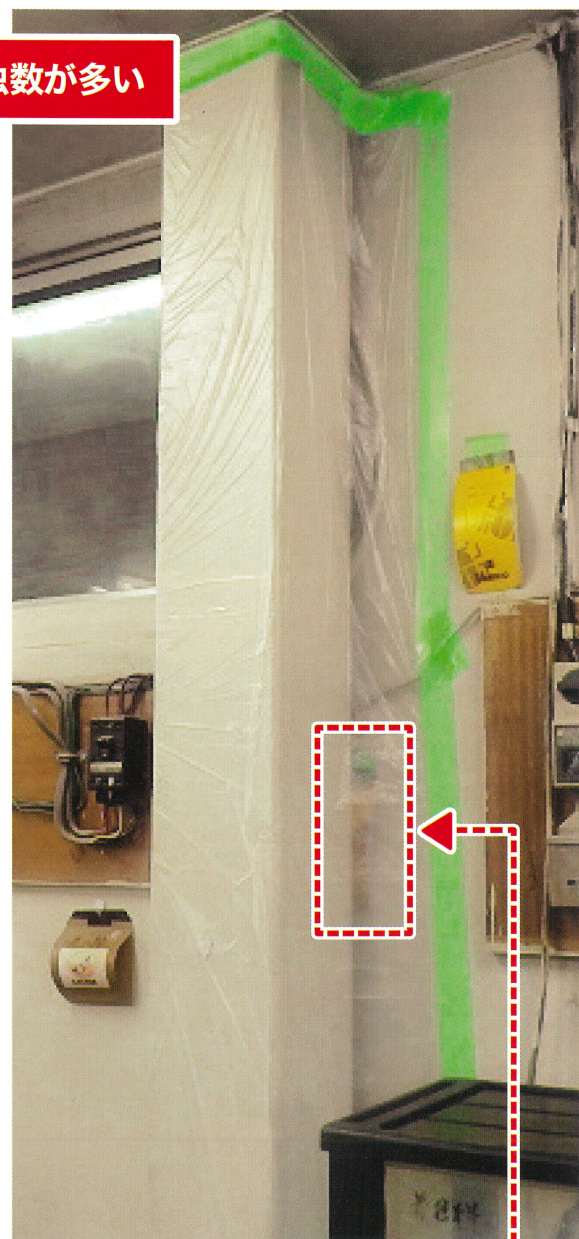


柱付近で捕虫数が多い

壁と柱の隙間



確認した結果、壁と柱の隙間に  
害虫のエサとなる粉塵の堆積を発見。

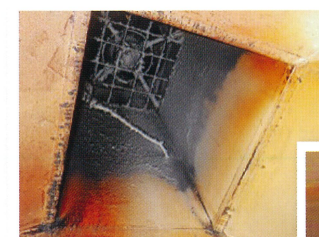


柱と壁の隙間を塞ぐように養生。  
養生内外にフェロモントラップを設置。

捕虫数を確認して養生内で捕虫が見られる場合、発生源が養生内にある可能性があります。フェロモントラップの効果範囲は養生の外側の方が面積的に広いので、内側の捕虫数が外側と同等の場合でも発生源となっている可能性があります。

# 短期設置による確認の例

日常清掃しにくい場所のモニタリング



ルーフファン

日常清掃がしにくく発生源になり  
やすいため、フェロモントラップ  
を設置する事で、発生を早期発見・  
対応に繋がります。



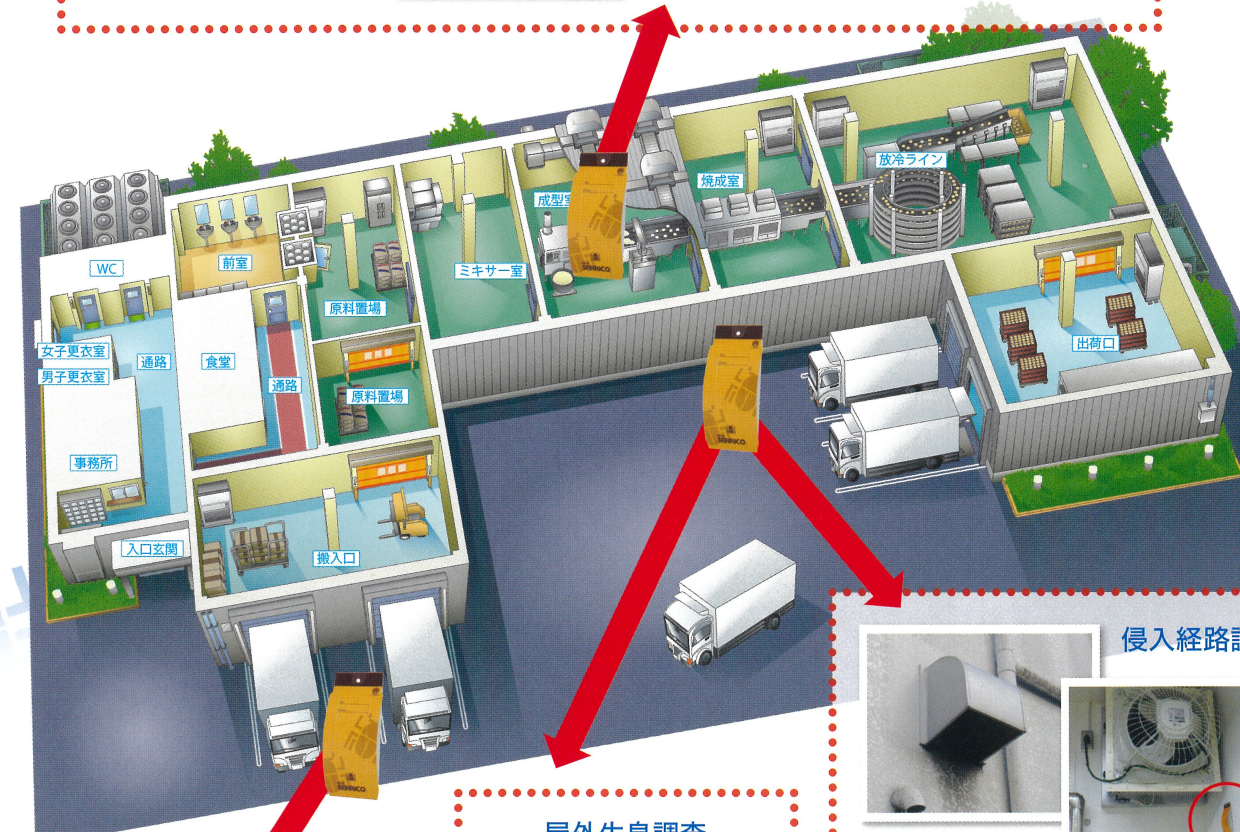
養生して  
トラップ設置



天井裏



配線ラック



貨物のモニタリング



トラックの荷台やコンテナ内などに対して、  
積載前の短時間、フェロモントラップを設置  
する事で、害虫発生の有無を確認できます。

屋外生息調査



貯穀害虫は屋外生息も確認され  
ており、建物外壁に 1~2 日  
間設置する事で環境調査を行  
う事ができます。

侵入経路調査



換気扇

※換気扇を止めてフェロモントラップを設置



屋根の隙間

屋外生息が確認された場合、そこからの侵入  
リスクの検証にもフェロモントラップが効果  
を発揮します。侵入経路となりうる箇所として、  
換気扇や屋根の隙間などが考えられます。  
換気扇や屋根の隙間付近にトラップを追加  
設置する事で、リスク調査を行えます。